838
297
116

三三雲橋

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

水上 源氏 本信濃
又 多年 本甲斐
三木 多氏 本武州流 本五畿
三雲 多氏 本近江
三橋 本三河
又 多年 本三川
又又 〃
〃

源氏
水上 本西信濃 次三階菱

新羅三郎義光後胤
武原支流

水上六郎 号宗淳

長童
生國信濃
大永二年壬戌歳攻島右近衛大夫将監
天文二年癸巳十月十日卒法名大勝大姉
故号淡路守同国通称武田家来攻落城

長光
童達 水上六郎 勇濃守
生國信濃
天文二年癸巳歳父相共来甲州属信虎後住信玄得甲州中右筆

根岸信輔氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

源氏

新羅三郎義光後裔

信濃源氏

水上

本国信濃 次三階堂

又

三郎

三雲 三本

又

水上

昭和八年 帝国図書館 蔵書

平信輔氏寄贈

長男

水上六郎 号宗淳

生国信濃

大永二年壬午攻島崎変得後仕第

天文二年癸巳攻深志大膳大夫長時

於会坂落追平州属武田信虎

長光

重達

水上六郎 勇濃守

生国信濃

天文二年癸巳又相共来甲州属信虎

後仕信玄得甲州中far

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

利光　水上六郎　六郎兵衛

重　母伊伊姫寺清女

生國甲斐

文正十年三年始生

大神君賜甲州平知　甲斐甲州中条二百貫文

母

寺共　信昌妻

重光　水上六郎　六左衛門

母伊井伊姫寺清女

生國甲斐

子住藤

生徳元年大御番寛永八年六月十一日死享年壱

重　水上六左衛門

生國武州

寛永八年六月廿日二百俵四十六年三月

万治二年三月五十八大坂御加百俵合四百俵

元禄八年三月八日

子松雲院殿徳峰源清居士

子輪光院殿心月祖印居士

正重　水上六左衛門

生國武州

寛永八年六月廿日二百俵四十六年三月

万治二年三月五十八大坂御加百俵合四百俵

元禄八年三月八日

子松雲院殿徳峰源清居士

正純　水上作之助　左衛門

母

延宝六年六月九日信大御番組頭

元禄七年三月廿一日病死法名得荒野宛

正一方　水上外記　六左門

母

貞享十三年丙子生
元禄七年甲戌十二月廿日二百俵本要領
同八年乙亥七十一被仰出廿四日
松平主計頭宅ニ而三人御番組
同十三年庚辰十二月廿日御番銀頭
同十七年甲申七月九日大御番組頭
宝永二年乙酉三月廿日御書院番
同十七年庚子八月廿日御番頭
享保十三年戊申七月九日大御番組頭
同十七年壬子八月廿日御書院番
享保十七年壬子八月廿日御書院番
于廣島院直阿淨院居士

正　水上一方之助

母

宝永十七年庚子
延享二年丙子十一月廿日病死
于保土ヶ谷宿之先妙泉寺

正方　水上甲次郎　小十郎

宝暦九年己卯
同十年庚辰十二月大御番
明和八年辛卯十一月廿七日

成政　水上谷二郎　六左門

母
寛政　年

家督四百俵為御近習右京之助

宝暦九年己卯三月廿日病死
于保土ヶ谷宿之先妙泉寺

寛政四年三十七歳御番
同九年三至七廿六丸

光長 水上甲次郎
母安

正 水上十郎右門
母同
慶安四年六月十四
御使番役 神田御殿於 召出

正沢 水上七左右門
正朝
延宝九年三月九十二日相続御番
天和三年三月廿九御小納戸 貞享三年
同四年十月二十六小普請組 元禄七年十月廿五九 大御番
宝永二年三月五十三日相続御番同六年
十二月廿一日元 大御番
土屋山城守組 正徳二年三月廿六丸 奉
予 全輪院殿振常光威居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

正孝　水上兵衛尉　十郎左門
　　実
　　正徳二年春七二歳自ら新本国方守直
　　享保三年代父二十九歳宗春院
　　号功運院殿一英浄雄居士

正賀　水上左吉　正時
　　子和二年癸十二月廿日　水上兵衛尉
　　実
　　享保三年改五九歳自ら新本国方守直
　　同十年七十五建部氏女子蔵時
　　元文二年七八十六歳
　　延享五年改五十四歳
　　干宿源院殿一雄栽頓居士

正光　水上五兵衛
　　母同
　　生国甲斐
　　元禄九年三甲府内藤帯刀組
　　同十七年三百加二百名合六百名
　　同廿年癸十一了元事　寿享右京亮
　　号後岳院殿體安大居士

正勝　水上五兵衛
　　母
　　寛永十三年甲子大住人小番安部摂津守組鉄砲二百挺
　　同十八年辛巳三四替于御部井伊掃部頭組同廿年癸未十二月廿日六百人
　　承應三年甲午九月同組頭
　　万治二年癸十二廿二加二百俵合八百人

延宝五年丁巳五九歳
乃孝岳院殿一洞卓伝再居士 孝岳院

正義 水上権九郎 六郎兵衛 五郎右衛門
母
万治四年辛丑二十八歳 中目見
延宝五年丁巳七十二歳 日六百石
同六年戊午三十九大御書院番荒川出羽守組
後許却手主行乃組之添十人
宇保十二年甲子六十九歳 等同寺
乃玄了院殿祖公智全意居士

正高 水上織部
母
元禄十六年癸未十二十八家督 百石於御台所上様類屋相模守
傳之為 七兵衛組却手主行乃組

宝永元年甲申三十五 家督 御徒 献銀馬代 同組時
同三年丙戌四五大御書院番酒井因幡守組 為其後子細時
宇保十二年丁未十一九死年
乃法岩院殿忠安了義居士 享年

曾 太郎 (空白) 太郎兵衛 孝門 忠次
大郎七郎乃忠親寿
宇保十六年辛亥五十三 信敬院殿妙勝日在大姉

興正 水上吉之助 内膳 常方 義濃守
実弥源八郎大御番兵衛 卯忠植二男
宝永四年丁亥

妻 朝比奈清左衛門尉妻
女 法名 光池院殿蓮阿淨慶尼
永七年庚寅生 駿堂
享保十二年十二月七日 二百石
同十三年申二月廿日 御徒
同十六年辛未三月廿日 御書院番
御使ニて布衣 同十八年癸酉二月六日 大御番頭
加増 千石 寄合
寛延元年戊辰十月三日 卒 中側衆
同三年 隠居 跡式 嫡子
同四年卯四月廿日 御側衆
同十年庚辰五月三日 元服 同四年卯四月廿日 従五位下 前濃州刺史 藤原友自浦居士
同十二年辛巳八月廿日 寄合
法名 對心院殿信譽前濃州大禅定尼

朝比奈清左衛門尉 法名 光池院殿蓮阿淨慶尼

始正信
正相 水上幾太郎 帯刀 六郎兵衛 織部正 美濃守
母 朝比奈清左衛門尉妻
妻 内藤外記正方女
享保廿年乙卯生 駿堂
同廿二年丁巳二月廿日 御徒
同廿四年己未十二月廿日 御書院番
同廿七年壬戌十二月廿日 御使ニて布衣
同廿八年癸亥六月廿日 大御番頭
加増 千石
寛延元年戊辰九月廿日 寄合
宝暦元年辛未十月廿日 卒
法名 對心院殿信譽前濃州大禅定尼
同寺

女 母

忠昌 左吉 筒井主殿 内蔵

室 母 水上幾太郎

某 母 水上老之助

某 母 水上六之助

正 母 水上帯刀 始五兵衛

信節 織田 母 織田圖書 信濃守

某 母 水永二年庚申年六十四歳 幼名夏法逃亡 寺号林外 書院

某 母 水永二年庚申年六十四歳 幼名夏法逃亡 寺号林外 書院

某 母 内藤 水上記之丞

寛政二年庚申 隠居可休

女 母 文五年庚申 寺号蓮岩 行旅亡

室 母 宝暦八年戊寅二廿六日 筒井主殿 内蔵 助 延享四年丁卯七十二歳 寺号龍芥 清空

某 母 竹本次左衛門 長量寺

某 母 宝暦九年己卯二廿六日 寺号真山了 乱亡

某 母 明和元年甲申六十四歳 寺号林外 書院

某 母 水上帯刀 始五兵衛

寛政二年庚申 隠居可休

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

子
子
子

水上忠之卿

母

女子　幸之卿　寿り母

女子

女子

女子

藤原

水上　李國甲斐　紋左巴

本名菊生之旗本甲州住水上氏其時歴主作

義岡　水上五兵衛　生甲斐

住信玄嗜頼上州勝城守死

義長　水上清次　生甲斐　信玄甲州寛永二年七月駿河人倫訓蒙図彙出為甲斐駿河郡司同九年事池人諸説不審事内発云

義晴　水上之卿号治　生甲斐

高義　水上之卿号治

義川　水上織部卿

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

義久
義弘
義寿
義竜
義虎
義宣
義豊
義智
義成
義久
義弘
義寿
義竜
義虎
義宣
義豊
義智
義成

義陳 北上十次郎 之許号

寛文四年十月卒改方三男

寛文四年川合徳雄妻子

他事 子孫代々修理亮 梅村東十郎 ヶ

天明四年甲辰二十一年養子加納隆

寛政六年甲寅十月廿六日卒行年為十七人稱殿新宮町住物百俵

寺祝享和二年壬戌四月廿七日百十五歳牧野備前守傳ク

移封ニ付為由縁十次郎文政四年巳六月廿七日隠居

子 義陳 幸次郎 智山延之助 法明寺住職

子 義周 水上八戒 安永五申七月九日卒住六中之祖(中略)九年冬十月廿九日卒

子 母同姓義等子 春ヶ条

鐘五郎

雄之助

寛

文政四年巳六月廿七日智百十五歳為由縁十次郎跡

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

藤原

三木

本國飛騨

紋翅菱

姉小路流

三木右近大夫道綱

長男
改道倫

近綱 三木十兵衛

生國飛騨幼名猪丸

父道綱卒後在加藤遠江守光泰之許渡海朝鮮國加藤光泰

卒後在姉男左門貞泰後於備

大神君蒙 台德公被 召賜知百石改三百五十俵廣長十五年改二三百石小納

言 隼公被 召賜知百石改三百五十俵廣長十五年改二三百石小納

隼

春綱　三木金吾　八左ヱ門
母鈴木氏
寛永四年丁卯六位大内書院番
同六年己巳閏五月石同十年癸酉二七加二百石合七百石
慶安二年庚子四六死葬海禅寺今陽傳英剛居士

重綱　鈴木兵吉
母

自宣　三木式部　清左ヱ門
母
妻筧新太郎重成女
慶安二年庚子十二年一跡目七百石
万治二年己亥七四大内書院番山口備前守組

自常　三木伝七郎　平八郎　十兵衛
頼常　母筧新太郎重成女
延宝八年庚申閏八月七日見
元禄十年丁丑七十跡目七百石屋相模守信
同年分三住自御徒御鉄砲馬
乃御小性組
元文元年丙辰十月二日御小性組加増二百石
同二年丁巳六十二死葬回寺今兵道加増二百石

元禄十年丁丑三十五死葬回寺今兵道清居士

自朗　三木八十郎　八九ヱ門
母
既文二年丁巳
同年十二月大小十五跡目七百石小普請組
寺内観音町
浅井

宝暦六年丙子四月死養国寺ニ葬大瑞院文峰自明居士

自秀 三木八十五郎 兵庫 十兵衛
女
妻大田垣加右衛門娘 杉浦孫次郎
他妻新田善右衛門娘

宝暦六年丙子
病者組ゾ依野左兵衛組

嫡男 三木百助
善四

覚任ニ而
子幼ク家ヲ
継ス

女子
母杉浦孫次郎妻

某 三木八十五郎
母ハ大田垣加右衛門娘

高朗 三木八十五郎 十兵衛
善四

山名與左ヱ門来同壻

某 三木八十五郎
母ハ大田垣加右衛門娘

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

藤原
三雲 本國近江 紋 軍配團扇

成重 三雲 對馬守
生國近江
屬佐々木承禎旗下
江州蒲生郡

成持 三雲 新左ヱ門
生國近江
為織田信長浪人

成長 三雲 新三郎 新左ヱ門
生國近江
文祿二年壹岐拜
大神君被召出為召出而大御番
慶長元年兩御賜領米五百俵 同二年丁酉改地方の五百石
同九年辰年ゟ於江州甲賀郡内加千石ゟ大御番組数合千五百石

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

大和兩度從佛事寛永二年正
御幸即拜領之
寛永十二年乙亥十五死

成時 二雲新二郎
母

元和九年癸亥十二月廿六任大御番安部攝津守組場三百俵
寛永十年酉二七加二百石合二百石
同十二年乙亥十月一於二條在番而及

成賢 二雲内記 平左門
母同上

寛永元年甲子十二月廿六任大御番安部攝津守組場二百俵
同十年酉三加二百石合場四百石

定昌 二雲内藏助 新左門
母

方治二年丙子七四廿六任大御番安藤伊賀守組改新平御
寛文元年辛丑廿一賜二百俵高秋大坂在番改也
延宝七年己未八三江領詰為松平筑前守組
天和元年辛酉十五再入大御番改組
元禄二年己巳七十廿日六百五十石賜之同廿二日致仕

同十二年乙亥十五又成長孔花改時高在番而四月廿日死於筑又改長
千五百石
同年十二廿一日御書物同是新役也四尾加之内阿英二御番
延宝二年甲寅九月 御中番以大和二年乙丑十二十六轉
元禄二年己巳六十五死年
号成賢院殿青峰宝雲居士
葬当山楠陀山長谷寺

同十二年従四位下為同位須宝永二年
宝永四年従三位十二年四致仕
正徳元年薨八十三法名
号出雲誕院殿日往

妻進藤九左衛門尉

定好　三雲出馬　新九郎

妻進藤九左衛門尉親女

宝永四年従五位下為加賀守
家督時禄高拾万石太刀銀馬代同
十年七年従六位上侍従兼讃岐
守任先大国越四郎左衛門尉
宝暦四年従六位下
号真覚院殿法林日聴

妻長應寺

定好　三雲出馬　新九郎

妻進藤九左衛門尉親女

宝永四年従五位下為加賀守家督時禄高拾万石太刀銀馬代同
十年七年従六位上侍従兼讃岐

基 之雲

定憲 三郎雲八五郎 新左衛門

室 [illegible]女 大明五年七月卒 法華長應寺

子 女子 [illegible]

定憲 三郎雲八五郎 新左衛門

室 [illegible]女 大明五年七月卒 法華長應寺

子 女子 [illegible]

基 之雲

室 [illegible]女 大明五年七月卒 法華長應寺

子 女子 [illegible]

明和五年戊子十八三面智音号石松軒為少年寄組松平出馬助弟

同六年己丑七廿二大小書院番杉浦弥兵衛正方女

為高嶋八三郎主配 大明元年辛丑四廿五大小姓組

同七年庚寅廿五三婚 彩物番 佐久間修理亮

子 和三年癸卯廿七死年 奏者番 長應寺

号圭室 寺院 [illegible] 受誉日貞居士

定 三雲九八郎

室 [illegible]女 大明五年己丑卒 [illegible]

子 女子 [illegible]

定 三雲新次郎

母 [illegible]女 [illegible]

子 和二年庚戌七四歳 [illegible]

文化五年戊辰名 [illegible]

母 [illegible]女 小澤斗庵門

妻

定 三雲久五郎

母 [illegible]女 [illegible]

妻

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

文化五辰年七共三家督之者

三橋　本國三河

成政　三橋藤八郎　三橋與次右門
生國三河　生國三河
大神君孝仕賜三百石

成次　三橋善兵衛
宝徳之年仕賜三百石　御腰物之行後告老辞為伊丹順齊組寛文五年被
成政　三橋佐吉　柚原小兵衛
生國三河　母柚原少兵衛長利女後松平越前守家臣
大神君孝仕　為柚原九郎兵衛長貞養子
長勝　柚原次郎右衛門

三橋九左衛
成之　生国武州
公徳公仲公大炊番賜二百俵為箱根川走大役組寛永十年至百加二百石
成芳　三橋善兵衛　左吉
生同　実孫
文政二年三月廿二日三百石為小普請
寛文二年三月廿九日大炊番歩行
同五年七十一才死
成章　三橋兵二郎　平助
実源人　川口元右衛門室云男
三橋善五右衛門　女
寛文五年七月廿二日跡目三百石為戸田備後守組
延宝三年十二月十七日大炊番向筆者並寺社
元禄六年三月八日大炊番向材木司同八年七月一日大炊番
成嘉　三橋與八郎
母
宝永二年三月七日跡目三百石稲垣近江守後守傳之為小普請
同四年十月廿六日大炊番去摂州城守組
正徳五年七月十六日為先方沙汰無之
享保四年六月十七日病死
同十年三月六日為平兵之番
宝暦三年三月廿四日辞退金二枚乃戸田伊予守組
同十年正月九日致仕
同十二年己巳八十一才死
蒋幸國寺大寺院番頭日計居士
高事幸國寺組同十五年五月八日七十七才病死
宝永二年三月七日跡目三百石稲垣近江守後守傳之為小普請
号常在院心月日圓
成嘉　三橋與八郎
母
宝永二年三月七日跡目三百石稲垣近江守後守傳之為小普請
同四年十月廿六日大炊番去摂州城守組
正徳五年七月十六日為先方沙汰無之
享保四年六月十七日病死
同十年三月六日為平兵之番
宝暦三年三月廿四日辞退金二枚乃戸田伊予守組
同十年正月九日致仕
同十二年己巳八十一才死
蒋幸國寺大寺院番頭日計居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

成峰 三橋善兵衛
女
宝暦十年壬辰十二月廿七日没
同十年庚辰正廿一死

成意 三橋八之助 與右衛門
女
宝暦十年辰年九廿六日没
戸沢十郎左衛門
昭和六年巳十二月廿九日病没
三橋右膳

成善 三橋曙九郎 善右衛門
女

女子
書
大阪番
日下三左衛門 主殿善

女子 母同 [illegible]

集 母同 三橋弥次兵衛

成 母 三橋七郎兵衛門 成 三橋七郎兵衛門

大中寺開祖智学祖文福元年辰十二月祖跡国七年子成十二月
寛大姫中寺町正覚寺守淳覚院殿玄峰日耀尼

文化九年壬申七月廿日

成利 母 三橋九十郎 藤原成正 三橋志四郎

寛和三年癸亥九廿五子住大中寺開部淳妙尼祖母信女
文禄七年戊子二月廿日
行詮豊後守信
宝永八年辛卯四月廿五日
寺住七年目
同九年辰正廿四日
同廿一年子五十六歳仕

子信九年辰四月廿日
傳く為青木右ヱ門女
同年十九才出雲守浦井主殿室
同十年巳八月廿日病死為瀧川権兵衛室

寛保四年甲子正廿九日
正法寺
守正覚院殿玄峰尼
妻杉平仙之助信明女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

戒

三橋健次郎

母田邊氏娘

女

女

男

捐斐五尼ノ

妻

膳夫

三橋佐馬

信秀 三橋但馬守 生ニ河

大神君ニ得善鷹飼案善悪因被鷹ニ而用往于奥州津軽得名鷹数疋鷹野毎便于御供元和二年ニ死

信次 三橋佐馬 生ニ川 慶文役部鷹御用自ニ慶ニ命ニ而鷹役始百五十俵

信貞 三橋九九ノ介 王ニ十七年ニ生ニ川 元和二年ニ而病死ニ而小鷹役跡百俵

膳夫 三橋佐馬助

信久 三橋膳十郎 生ニ川 慶長ニ大神君ニ御供ニ而

信頭 三橋佐ノ介 生ニ川ニ州

信盛 三橋佐助 生ニ川 清津居ニ而

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

信重　三橋左衛門
助信為役

信道　三橋源蔵　喜左衛門
実　中務通伊東太郎九人ノ男三男
実母　小鍋水野平六郎女
延宝六年戊午十二六歳
助信為通

信安　三橋勘左衛門　始勘助
実生源五郎ノ寺壽二男
実母
宝永六年己丑四六月廿日
助通ノ弟ニ為ル

信義　三橋勘左衛門

元文五年庚申十二月廿日信
延享二年乙丑十二月六日兵部大輔
得待　年十八　廿三年ニ継
同四年丁卯十二月廿日辞
明和七年庚寅八月廿
天明六年丙午九十九歳
号智覚院殿順室ノ隠居ニ

信貞　三橋才次郎
実　大炊寮伊東喜太郎祐高二男
実母　福井藩小林圖書昌雄女

信正　三橋豊之助　喜兵衛
実　大炊寮富永彦兵衛寺善淵男
実母

宝暦八年戊寅三廿六為養子
明和五年戊子七廿八死

明和七年庚寅八月廿八家督百五十俵
安永二年癸巳八廿三廿九十人ニ
名喜兵衛ト
天明八年戊申四月致仕

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

信喬　三橋晴之丞

天明八年四十四歳百疋俵為南部侯寛政三年子歳十五ノ
八年子ノ歳ヨリ代々小十人ノ組長田能登守同ノ年歳十二
文化元年子ノ歳ヨリ小十人ノ組為荒井十左衛門組頭

信靖

三橋伊馬　信晴
二男

信貞　三橋九左ヱ門

文政十七年午生
台徳院様御召出為御扶持
百俵

信年　三橋九左ヱ門

弘化三年歳三十一番組
小普請
大和二年歳三十一番組
御扶持十五人扶持

信定　三橋孫郎　九左ヱ門

大和二年歳廿五歳
宝永五年歳子八月
十ノ組御扶持百俵

藤原

三橋

本國三河　庶子内豎

成興　三橋典次右ヶ門

成正　三橋権左ヶ門

正次　三橋作兵衛

生武州
今住江戸人組与力二百俵

正　三橋市之丞　市左ヶ門　左内左衛門

慶安元年戊子十九始而見参
同二年己丑十二年六月廿四日
寛文四年甲辰二
元禄二年己巳十二月廿二日死

元禄二年度午十二月廿日
三百俵之内加増
三百俵之内加増
陸奥番同心手番与力

正繁 三橋源兵衛 八郎右衛門

寛文三年癸卯六月新規為小十人組
賜百俵古
延宝 年 四月方申御普請
元禄元年戊辰十月一日大方御納戸
同年十二月加百俵合三百俵
同四年辛未二十六日元御廣敷
御番士席組頭兵庫守時
宝永五年戊子十月花山御館
寺秋光院ヲ山日晴居士

正 三橋権右衛門

寛文四年甲辰十一月廿日 御目見

正行 三橋典次郎 與次右衛門

宝永六年己丑六月父大御番
跡九組賜二百俵
正徳元年辛卯四月三右衛門
宇治五年乙未十九日三百俵
水野和泉守傳ヲ為石川兵庫
守成典開中野守土花時致在
同八年戊戌十二月六日病死
寛保二年壬戌四月九日浄心寺
ヲ光山院岱日晴居士

正幸 三橋源蔵

明和元年甲申閏十二月六日家
ヲ継ぎ水野和泉守ヲ為御使番
同廿一年辛卯十二月廿日貰
因幡守組

延宝三年乙卯十一月八日御馬方
後以物頭ヲ為御使番ヲ為
宝暦四年甲戌五月六日病死
之墓

正寿 三橋秀之助

天明四年甲辰八月九日家ヲ継
ヲ山顕光院観岳日忠居士

正亮 三橋兵右衛門

宇佐八幡宮御神馬方
後以物頭ヲ為御使番ヲ為
宝暦四年甲戌五月六日病死
之墓

明和元年甲申閏十二月六日家ヲ継
大御番ヲ賜二百俵
同八年辛卯十二月廿日三百俵
天明七年丁未七月九日病死

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

正成 三橋 嘉亭

藤原 三橋 本國三河 上總内童 兵衛

某 三橋三郎右衛門

盛持 三橋藤兵衛 生國三河 官長手中老仕 台徳 寛永二年乙丑三十九 大樂道敬

盛次 三橋藤七郎 文祿二年癸巳生相州 台徳公御鷹匠 貞享四年丁卯年九十六歳 于調和院殿 寶曆道敬院

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116　ガラス使用

盛　三橋治右衛門

元禄六年癸酉十二月廿日父之跡
十俵三人扶持
此六石壹百七十五俗

盛以　三橋源兵衛　文三年卒

元禄六年癸酉七十一歳相続十俵三人扶
御賄頭西丸御書役寺社之者支配
十月廿四日卒　墓見中番
宝暦三年酉十二月廿九日病死　法名瑞梅院殿全道常安大居士
寿延寺

寿以　三橋曙十郎　子後二年壬寅二月

寿以　三橋源四郎

宝暦二年申十月廿日父跡
十俵三人扶持
寛政二年戌十四歳相続　御賄頭
寛政三年亥十二月廿四日病死　法名瑞梅院殿浮山和定大居士
寿延寺

盛輝　三橋勝七郎

寛政三年亥十二月廿四日父跡
十俵三人扶持
寛政十年午二月廿日病死　法名瑞梅院殿浮山和定大居士
寿延寺

業　三橋源四郎　女

盛　三橋左吉

文化十年酉三月廿六日相続
十俵三人扶持
御賄頭
文化十年酉三月廿六日

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

盛　三橋甚五郎

母同

慶長十四年六月十四
神田明神社内ニ而
百石借宅ニ而十五年迄住
後ニ移
元和二年寅十九歳仕
官ス
同十年十月九十八石ニ
無量院ニ而叔静院ニ而
願休居士

盛政　三橋藤七郎

母同

元和七年酉十九歳相
同七年ニ而五百石ニ而
叙爵同七年ニ而五百石ニ而
寛永八年七月五百石ニ而
致仕

妻　三橋十内勘兵衛
娘

妻　三橋藤七郎
娘

寛文十六年子十一月廿五日
病死番杉田氏墓ニ有
二月後元之三年寅十二月一
緑同
為土屋采女正殿
同六年子百二十六石ニ而
寄合ニ而
寛保二年戌七二歳

盛直　三橋又四郎　三郎左衛門

享保四年亥十一月廿八日
病死番
法号

妻

寛延三年庚午五月廿日
宝暦四年戌十一月五日

盛義　三橋鍋五郎　勝平

大明二年酉七月廿日
寛政二年戌二月廿六日
大久保加賀守殿
御家人ニ而
病死

盛栄　三橋藤市郎　勘平

子ニ而二百石ニ而
寄合ニ而
隆

盛次　三橋勝助

母同

為同姓半左衛門
養子

女子

女子

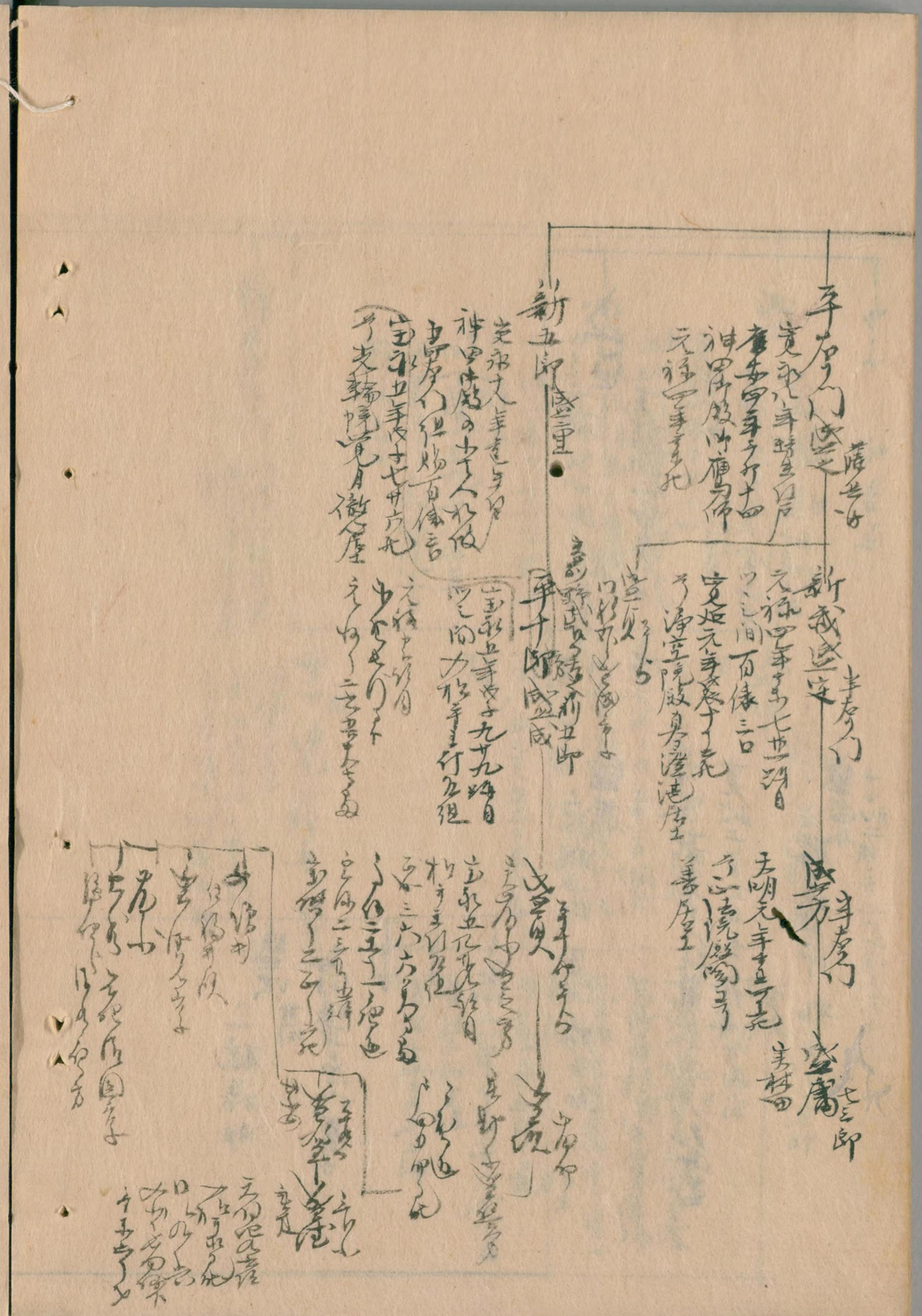
女子

子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

838
297
116



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

838
297
116

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用